

「多文化ぼうさい宝探しとワークショップ」を開催しました（2026/6/6）

テーマ：多文化共生・インクルーシブ防災
会場：東北大学片平北門会館エスパス及び片平地区周辺

2026年6月6日（土）、仙台で暮らす外国人を対象に公益財団法人仙台観光国際協会、災害科学国際研究所（IRIDeS）、上廣防災学寄附研究部門、東北大学ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン推進センター主催で、第4回「多文化ぼうさい宝探しとワークショップ」を開催しました。

外国人防災リーダーや公益財団法人仙台観光国際協会（SenTIA）に所属する言語ボランティア、一般参加者を合わせて49名、17カ国からの参加がありました。仙台で暮らし始めて間もない人や、母国ではあまり災害経験がなかった人など、参加者の防災に対する知識や経験は様々でした。はじめに、仙台市周辺で起こりやすい災害と対策についてゲルスタ・ユリア准教授（災害メモリー学分野）と、公益財団法人仙台観光国際協会（SenTIA）の八巻優子氏から説明がありました。石川美希助教（上廣防災学寄附研究部門）からは音声認識アプリ「UD トーク」の使い方について説明がありました。音声認識アプリの翻訳機能を使うことで、災害時や聴覚に障がいのある人だけでなく、仙台で暮らす外国人にとっても日常的なコミュニケーションのサポートになることを実感できたこと、高橋利恵子助手（上廣防災学寄附研究部門）の手話通訳、および音声認識アプリや表情、ジェスチャーなどを用いて多様な国の参加者と意思疎通ができたことは、私たちにとって大きな収穫でした。

その後、仙台市青葉区片平地区の各所において「多文化ぼうさい宝探し」が実施されました。災害史を含む仙台の歴史や文化にちなんだクイズを解くと、災害時に役立つ「宝物」がある場所の謎が解けるものです。クイズはマリ・エリザベス教授（国際研究推進オフィス）が作成しました。参加者らは、クイズを解きながら避難所となる小学校や集会所、がんばる避難施設、災害救援自販機などを実際に探しながら片平地区を巡りました。各グループの案内役であるマリ教授、齋藤玲助教（認知科学研究分野）、ベスコボ・ルベン助教（災害ジオインフォマティクス研究分野）、石川助教、高橋助手、猪狩暢子助手（上廣防災学寄附研究部門）、齋藤由美子助手（上廣防災学寄附研究部門）、仙台市片平地区まちづくり会の柳谷理紗氏らが、各スポットで災害時の心掛けや施設の説明をしました。片平市民センターの備蓄庫も開放してもらい、佐藤健教授（防災教育実践学分野）が災害用備蓄品の説明や手動発電機の操作を実演しました。参加者らも佐藤教授のサポートを受けながら、実際に発電機操作を体験しました。「多文化ぼうさい宝探し」終了後は、ゲルスタ准教授から防災グッズの使い方について紹介があり、参加者らは「自分に必要な物はどれだろう」と手に取りながら熱心に防災グッズを見ていました。参加者から「災害対応自動販売機や避難所など、身の回りの場所を把握するのに役立って、参加してよかった」「避難場所等の現場の確認ができてよかった」などのコメントをいただきました。

文責：佐藤健（防災教育実践学分野）、マリ・エリザベス（国際研究推進オフィス）、ゲルスタ・ユリア（災害メモリー学分野）、齋藤玲（認知科学研究分野）、ベスコボ・ルベン（災害ジオインフォマティクス研究分野）石川美希・高橋利恵子・猪狩暢子・齋藤由美子（上廣防災学寄附研究部門）

（次頁へつづく）



災害対策について話すゲルスタ准教授



「多文化ぼうさい宝探し」の説明をする
マリ教授



クイズを解く参加者の様子



手動発電機操作を説明する佐藤教授



音声認識アプリを活用し解説する石川助教



クイズを解き、ゴールした参加者たち